

令和7年度 埼玉県農業大学校評価システムシート

教育方針	1 農業経営に必要な技術と知識を備えた実践力のある人材の育成 2 グローバルな視点と企業の経営感覚を身につけた人材の育成 3 地域農業の持続的発展をけん引するリーダーの育成
------	--

教育方法	1 課題解決型学習を基軸として実践教育を行う 2 講義、実習、農家研修を効果的に組み合わせ各人の能力に応じた教育を行う。 3 農業法人経営者、流通販売企業家など第一線の外部講師を活用する。 4 農業経営者育成のためのカリキュラムを編成し必要な免許・資格取得を支援する。
------	---

重点目標	1 学生の意向を踏まえた進路指導 2 大学のDX化 3 学習環境の整備 4 埼玉農業の担い手となる学生の確保 5 本校職員の負担軽減
------	--

達成度	A	達成(100%以上)
	B	概ね達成(80~99%以上)
	C	不十分(80%未満)

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価 (2月末 現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 2年課程の学生は高卒者が多く、平均年齢は約20歳となっている。一方、1年課程の学生は4大卒や社会人、定年後等様々で、平均年齢は約40歳である。 また、入学生のうち非農家出身者は7~8割でその割合は年々増加している。 【課題】 学生の進路を早期に確定するとともに、確実に就農希望地での就農に結び付ける必要がある。	進路決定率 100% 就農率 75%以上	①進路指導 ・コース別学習(自営就農、農家子弟、就職就農、関連産業)の実施 ・キャリアコンサルタントによる指導 ②就農支援 ・就職就農を含む就農支援 ・農業法人等見学会・説明会開催 ・チャレンジファーム(校内の余剰ほ場を利用した授業外での営農実践)の実施 ③資格取得支援 ・農業に関する資格取得の講習実施	①進路指導 ・コース別学習の実施、実施後の学生満足度 ・キャリアコンサルタントによる指導回数 ②就農支援 ・計画どおりの就農支援活動 ・チャレンジファームの実績 ③資格取得支援 ・学生1人当たりの資格取得数(平年並の2.7以上)	進路決定率: 100% 就農率: 70.6% ①進路指導 ・コース別学習実施: 対象1年78人、2年54人 ・キャリアコンサルタントによる指導: 延べ120回 ②就農支援 ・就農ガイダンス(4/23)、就農相談会(5/14)、農業法人等説明会(5/14、1/30、2/10)の実施、116件の求人情報提供 ・チャレンジファーム: 実践者11人 ③資格取得支援 ・学生1人当たりの資格取得数: 2.52	B	【課題】 ・入学後の進路指導、就農支援の強化 ・卒業後の状況把握 【改善策】 ・コース別学習の充実 ・キャリアコンサルタントによる指導 ・就農ガイダンス、就農相談会、企業・農業法人等説明会の早期開催 ・チャレンジファーム支援の強化 ・学生による農業機械活用の強化 ・免許、資格取得への支援
2	【現状】 学習環境は新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、ほぼ平常に戻っている。 【課題】 学生の学習機会の幅を広げるよう努めるとともに、スマート農業などに代表されるような最新の農業技術を学ぶことが必要である。 また、授業資料等の紙媒体の削減や学生との連絡等の電子化を進める必要がある。	カリキュラムの充実	①スマート農業授業の拡充 ・スマート農機導入(ドローン、GPSナビキャスタ、畝間局所施肥など) ・スマート農業に関する授業内容の充実 ②学校用グループウェアの導入・活用 ・紙資料の削減、電子掲示板の活用等 ③生産物販売機会の拡大 ・校内での販売実習 ・各種イベントでの販売・接客 ・チャレンジカンパニーでの販売・接客 ④先進農家等体験学習の実施 ・県内農家や富良野での体験学習: 39日間	①スマート農業 ・予定したスマート農機の導入と授業への活用 ・全学生のスマート関連授業の受講 ②グループウェアの導入・活用 ・授業等への活用状況 ③販売機会拡大 ・計画どおりの販売・接客の機会の確保 ④先進農家等体験学習 ・派遣先におけるトラブル等の無い計画どおりの学習	カリキュラムの充実 ①スマート農業授業の拡充 ・スマート農機導入: GPSナビキャスタ、ドローン、畝内局所施肥、自走式防除機の活用及び導入 ・スマート農業の授業の受講: 全学生100%受講 ②学校用グループウェアの導入・活用 ・電子掲示板の活用、レポートの提出等 ③生産物販売機会の拡大 ・校内での販売実習 ・大学校祭、トリムフェスタ等イベント ・チャレンジカンパニー: 12人 ④先進農家等体験学習の実施 ・2年生全員が県内、富良野で39日間実施	A	【課題】 ・カリキュラムの見直し 授業内容の充実 ・グループウェアの活用 【改善策】 ・講義内容の見直しと整理 スマート農業授業の充実 ・グループウェアの活用徹底による、ペーパーレス化 ・職員と学生間の連絡効率化
3	【現状】 専攻ごとに日頃から施設・設備の適正管理による事故の未然防止を徹底し、学生が学びやすい環境づくりに取り組んでいる。 【課題】 農業機械の操作方法や技術は事前に十分学習させているが、農業機械や施設設備等を使用する実習では大きな事故に繋がるリスクがある。 また、近年の夏季の猛暑における学生の熱中症対策が必要である。	農作業実習中の事故ゼロ 熱中症対策の実施	①安全指導の徹底 ・職員研修会の実施 ・実習ほ場におけるGAPの実践 ・実験や実習における安全指導 ②日常的な施設・設備の点検の徹底 ・農業機械・施設の点検・整備 ・実習施設の適正な管理 ③校内内の施設・設備の定期的な安全点検実施 ・計画的な巡回による安全点検 ④熱中症対策の実施 ・夏季の休憩場所確保(大・中教室解放・冷房) ・学習前後の健康状況の把握 ・熱中症発生時の対応マニュアルの整備	①実習や実習時の安全指導の徹底 ②日常的に使用する農業機械・施設の点検・整備の実施 ③校内内巡回、定期的な安全点検の実施 ④マニュアルの整備及び熱中症対策の実施	農作業実習中の事故: 0件 熱中症対策の実施: 救急搬送はゼロ ①安全指導の徹底 ・VRを用いた安全研修(農業機械授業) ・S-GAP自己点検実施(GAP概論授業) ・実験や実習における指導(随時) ②日常的な施設・設備の点検 ・農業機械・施設の点検・整備(通年) 実習施設の適正管理(通年) ③校内内の施設・設備の定期的な安全点検 ・計画的な巡回による安全点検(通年) ④熱中症対策 ・夏季時の休憩場所確保(専攻棟、大・中教室、学生ラウンジ、交流ラウンジ) ・学習前後での健康状況の把握 ・熱中症発生時の対応マニュアルの整備	A	【課題】 ・農作業実習中の安全確保 【改善策】 ・日常の実習における安全確保の徹底 ・実習におけるGAPの実践 ・夏季の実習における休憩時間確保の徹底
4	【現状】 1年課程では短期野菜専攻・有機農業専攻とも定員を満たしていない。2年課程では水田複合専攻以外で定員を満たしていない。 学科・専攻ごとに受験倍率に差が見られ、入学決定者の学習能力にも差がみられる。 【課題】 就農意欲と農業実践力の高い学生を確保するため、本校への入学を希望する生徒等の裾野を広げる必要がある。 また、入学者の基礎計算力向上が必要である。	出願倍率 1.5倍 基礎計算テスト 全員合格	①学生募集の強化 ・全国の農業系高校、県内の全高校へ学校案内と学生募集の資料送付 ・HP、パンフレット等を活用した特色ある教育活動の積極的な情報発信 ・県内及び近隣都県高校での説明会参加 ・オープン見学会の実施 ・農業高校体験研修及び農業体験講座の実施 ・各地域連携会議、各種イベントへの参加 ②入試方法の改善 ・一般入試の数学I内に基礎計算(単位換算、割合、肥料成分、農薬希釈等)の実施 ・面接での質問内容の整理 ③基礎計算学習の徹底 ・入学者に基礎計算に関する教材を学習するよう機会を捉えて徹底	①学生募集 ・計画どおりの募集活動実施 ②入試方法改善 ・一般入試の内容改善 ・面接での効果的な質問の整理 ③基礎計算力向上 ・基礎計算力確認テスト結果	出願倍率1.44倍 基礎計算テスト全員合格 ①学生募集の強化 ・全国の農業系高校、県内の全高校へ学校案内と学生募集の資料送付 ・HP、パンフレット等で情報発信 ・県内、近隣都県高校の説明会参加: 28回 ・オープン見学会11回、個別相談会等: 12回 ・農業高校体験研修、体験講座: 8/1, 8日 ・各地域連携会議、イベント参加 ②入試方法の改善 ・面接での質問内容の整理、面接者の研修会開催(10/14) ③基礎計算力の向上のための補講実施 ・能力把握テスト(4/12)とこれに基づく22人への補講(5/20, 27, 6/3, 10, 17)及び追加補講(7/1, 8) 計8回	A	【課題】 ・受験倍率向上と定員確保 【改善策】 ・入試日程の見直し ・農業高校との連携強化 工業や食学科などの学科を持つ高校への働きかけ ・オープン見学会や農業高校体験研修等の充実 ・農林振興センターや関係団体等との連携充実
5	【現状】 本校職員の時間外勤務は増加傾向にあり、ストレスチェックの結果も数年来、県及び農林部全体よりも悪い状態となっている。 【課題】 時間外勤務の増加要因として生産物の出荷や講義・実験の準備に係る労力がある。	生産物販売の 効率化 授業の外部化	①出荷労力の削減 ・生産物販売先の集約化 ・集荷体制構築に向けた検討 ②授業の外部化 ・講義や実験が対応可能な外部講師の確保 ・外部講師確保のための予算確保	①出荷労力 ・出荷先の集約化 ・集荷体制の目的 ②授業外部化 ・外部講師の確保 ・講師謝金の予算確保	生産物販売の効率化 授業の外部化: 67.3% ①出荷労力の削減 ・熊谷青果市場へのC品出荷、漬物加工会社への企画外品販路拡大 ②授業の外部化 ・外部講師の確保及び予算確保	A	【課題】 ・生産物の集荷体制構築 ・授業の外部化促進 【改善策】 ・集荷体制構築に向けた検討を継続 ・授業の外部化に向け、講師・予算の確保

学校関係者評価	実施日 令和 年 月 日 学校関係者からの意見・要望・評価等 引き続き卒業生全員の進路決定、就農率の向上及び卒業後の就農継続状況の把握に努める。 今後も活動を継続、充実させていく。 安全対策の継続を望む。雷探知機の導入も必要ではないか。 学生数が減る中で今後の出願者確保、高校新卒者の確保については農業高校を中心に県内の高校とどのように連携していくか大きな課題である。 継続して販売先の効率化、職員の負担軽減を図る。
---------	--